

vol. 2281

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 原水禁 広島大会・長崎大会
- 2022年度 人事院勧告
- 第64回「教育運動交流集会」 第38回「カリキュラム編成講座」

原水禁 広島大会・長崎大会

広島大会(8月4日～6日)には仁木書記次長が、長崎大会(8月7日～9日)には窪田書記長が参加しました。また、長崎大会に地区平和運動センターからの動員枠で、高教組組合員2人が参加しました。

<参加者還流報告>

○原水禁広島大会に参加しました。初日は折鶴平和行進と開会行事が開催されました。「被爆者の訴え」として、切明千枝子さんの話を聞きました。一言一言がとてもしっかりとした口調で、だからこそ伝わるものが多いにありました。私達や生徒達は決して戦争の体験者になってはいけませんが、戦争や被爆の恐ろしさ・悲惨さを伝えていく責任があると、改めて感じました。

2日目はまず、分科会5「ヒバクシャーヒバクシャから若い世代へ」に参加しました。その後、中学校の修学旅行以来原爆資料館を訪れました。14歳の時とはまた違った感覚になったのと同時に、もっと早く来なければいけなかったと思いました。久しぶりの広島の駅や街は、とても近代的でした。でもだからこそ、これからも頻繁に平和について考える機会を自分から作らなければいけないと強く思いました。

(仁木史絵)



○8月7日(日)～9日(火)の3日間、長崎で各種集会在開催され、初日は原水禁長崎大会の開会式、2日目は第3分科会「脱原発－フクシマの現状と課題」と連合の平和集会、3日目は、原水禁長崎大会の閉会行事会場から爆心地公園まで行進と連合のピースウォークに参加しました。長崎で被爆者健康手帳交付を国に要求する裁判が続いている報告、東京電力福島第一原発事故当時、子どもだった男女6人が甲状腺がん罹患したのは、原発事故に伴う放射線被ばくが原因であるとして、作業員以外の公衆が東京電力を訴える初めての裁判の報告、「ALPS処理水」の海洋放出の問題に対してマーシャル諸島在住者が危機感を持っている報告、原爆投下当時10歳だった三瀬清一郎さんが、被爆者としての体験を通して一人ひとりが平和の尊さを噛みしめる必要があるとの訴え、「ウクライナ危機」後の核軍縮についての基調講演、各会場での高校生平和大使の活動報告がありました。全体を通じて、核の問題は、人類の問題であることを再認識しました。

3日間を通じて、今年25周年を迎える高校生平和大使の活動の広がりを感じました。どこの会場でも活躍している姿は、平和を実現する若い力を感じさせました。大分県でも、高校生1万人署名活動や高校生平和大使の活動があります。それをもっと広げることができないか、平和教育に活かさないかなどを考えていきたいと思いました。

(窪田一真)



2022年度人事院勧告

8月8日、人事院が国会と内閣に対して勧告を行いました。

3年ぶりに俸給表が改正され、一時金0.1月の引き上げとあわせて、年間給与が平均で55,000円増となるものです。

3年ぶりに月例給、一時金ともに引上げ

人事院勧告・報告が、8月8日に出されました。

【給与勧告の骨子】

○本年の給与勧告のポイント

～3年ぶりに月例給、ボーナスともに引上げ～

- ①民間給与との較差921円(0.23%)を埋めるため、初任給及び若年層の俸給月額を引上げ
- ②ボーナスを引上げ(0.10月分)、民間の支給状況等を踏まえ勤勉手当に配分

○給与改定の内容と考え方

<月例給>

①行政職俸給表(一)

民間企業における初任給の動向等を踏まえ、総合職試験および一般教養試験(大卒程度)に係る初任給を3,000円、一般職試験(高卒者)に係る初任給を4,000円引上げ。これを踏まえ20歳台半ばに重点を置き、初任の係長級の若手職員にも一定の改善が及ぶよう、30歳台半ばまでの職員が在職する号俸について改定。

②その他の俸給表

行政職俸給表(一)との均衡を基本に改定(専門スタッフ職俸給表及び指定職俸給表は改定なし)

<ボーナス>

民間の支給状況に見合うよう引上げ 4.30月分→4.40月分

民間の支給状況等を踏まえ、勤務実績に応じた給与を推進するため、引上げ分を勤勉手当に配分。その一部を用いて上位の成績区分に係る原資を確保。

<実施時期>

- ・月例給 2022年4月1日
- ・ボーナス 法律の公布日

○その他のとりくみ

- ①博士課程修了者等の初任給の見直し(本年中に改正(改善))
- ②テレワークに関する給与面での対応(検討)

九協の仲間が集い、対面開催!

第64回「教育運動交流集会」

第38回「カリキュラム編成講座」

8月16日～17日に、日教組九協の第64回「教育運動交流集会」、第38回「カリキュラム編成講座」がソレイユ(大分市)で開催され、地元県として多数の組合員が参加しました。

この集会は、「憲法の理念を実現し、子どもの権利条約の具現化をはかること」を目的としています。具体的には、①組織的な教育運動の交流を通じて、組織の強化・拡大と教育運動の発展を図る ②学校・保護者・地域が連帯し、協力し合って、子どもの成長を支える協働の学校づくり・地域づくりをすすめる ③子ども・学校・地域の実態に即した創造的なカリキュラム編成をすすめる です。

開会行事では、基調報告や日教組教文局次長の本多君徳さんの挨拶のあと、講演がありました。講師は、中央大学教授の池田賢市さんで、「『学び』のあり方を変えられるか」と題しての講演でした。「『がんばっている』や『できる』かどうかは他者からの評価であるので、認められるまではがんばり続けるしかない。この発想が子どもたちも教員も追い込んでいく」「今の教育では学力の多様性が認められていないから、インクルーシブ教育につながらない」「『アクティブ・ラーニング』は座って授業を聞くだけでも十分に成り立つ」等、私たちの日頃の教育実践について、もう一度考え直すべき事項がたくさん含まれた、充実した内容の講演でした。

<講演の感想>

○10年近く前、大阪で人権関係の集会で池田先生の話の聞きました。「『合理的配慮』はフランスでは合理的調整である」ということばに、すごく納得する部分がありました。

授業中に「何事も準備が大切」と言っている自分に気付かされました。学びを窮屈にしているのは、私たちかもしれません…。

(大分商業分会 坪田健二)

※池田賢市さんについて

1962年東京生まれ。現在、中央大学（文学部教育学専攻）教授。教育学博士。大学では、教育制度学・教育行政学等を担当。専門は、フランスにおける移民の子どもへの教育政策および障害児教育制改革の検討。共生や人権をキーワードとして研究をすすめている。



大野委員長（教文部長）の基調報告



講演の様子

なお、池田さんには10月23日開催の教研全体会（場所：大分県教育会館）でも記念講演をしていただきます。多くの方の参加をお待ちしています。

講演会后、各分科会に分かれてレポートをもとに議論を深めました。大分高教組からは、後藤恵美さんが「子どもの権利を保障する」と題して第3分科会で報告を行いました。対面開催ということもあり、時間いっぱい有意義な討論ができました。

参加したみなさん、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

分科会レポートおよび参加者感想

◎教育運動交流集会

【第1分科会 現場からの教育改革】

報告単組	レポート名
宮崎高	「主体的・対話的で深い学び」としての判例学習について
沖縄高	18歳を市民に ～国語科で行う主権者教育～



<参加者感想>

○判例学習を通して主体的・対話的に深く学ぶことに関するレポート発表を聞いて、生徒と社会を近づけ、実生活の中でよりよく生きるためのヒントになっている内容だと感じた。授業を作るために最高裁のホームページ等を利用して判例を集めたり、その判例を読み解いたり、発表者の熱意とその過程を楽しんでいる様子が伝わってきた。今回の分科会で、他の方の質疑を聞くことで新たな疑問も出てきて、対話を通して知識や思考が深まる体験をすることもできた。

（竹田分会 井上裕之）

○第1分科会では、宮崎高と沖縄高のレポートをもとに、討議がありました。まず宮崎高から、政治経済の授業の中で「主体的・対話的で深い学び」にとりくんだ内容について発表されました。教科書の単元毎に関連する判例をワークシートの形に教材化してグループ学習をすることで、生徒が生き生きと学ぶことができた、という内容でした。主体的とは何かを考えさせられました。次に、沖縄高から国語の授業の中で「主権者教育」にとりくんだ内容について発表されました。7月の参議院議員選挙の比例代表の政党別の選挙公報を教材として、グループ学習をして読み取ったことを意見発表する、という内容でした。生徒が主権者に育つために、学校の活動の中で何ができるのかを考えさせられました。

（中津東定時制分会 河野邦広）

○「18歳を市民に」…国語の授業で、主権者教育を行っているという実践に驚きました。担任を長くやってきましたが、パンフレットを配布して生徒とパラパラ読むくらいしかしてこなかったので、選挙公報を使って考えさせるとりくみは参考になりました。その後、校則や制服の話になりましたが、いかに生徒に考えさせ、行動させるかが大事だと考えています。

（三重総合分会 多田政友）

【第2分科会 連携した学校づくり・地域づくり】

報告単組	レポート名
熊本高	少子化の中で地域の高校のあり方をどう考えていくべきか ～熊本県における高校再編整備と高校定員割れ問題～
大分県	「ふるさとを愛し、ふるさとに貢献できる」子どもの育成をめざして

<参加者感想>

○第2分科会に参加しました。1日目は、熊本高のレポートで、熊本県立高校の再編整備とそれに伴う問題点や、その解決のためのとりくみについて発表されました。熊本では、通学区を3つに再編したところ、熊本市内への集中、周辺部の定員割れと私学の流出という傾向がかなり強くなっている、とのことでした。特に周辺部では、後期入試の倍率が0.1を切る高校がいくつもあることにとっても驚きました。各県とも同様の問題はありますが、それに対する県当局の考えは各県

で異なり、小規模校を残そうとする県や学区制を維持する県もあり、今後の高校再編のあり方について参考となるところがありました。今回、このような社会状況の中で対面形式の集会に参加でき、組合員であることの良さを感じることができました。

(南石垣支援分会 萩原健太郎)

○17日の第2分科会に参加した。国東支部・姫島小分会の大海さんのレポートについて大変興味深く話を聞くことができた。教育課程特例校として「ふるさと科」

「外国語科」を新設しての学習報告があった。なかでも、「ふるさと科」については、地域の方々を講師に迎え、学校内外でとりくむ活動が興味深かった。地域の「過去・現在・未来」を子どもたちが積極的にとりくむ学習は大変意義深いものであるが、その反面諸会議をはじめとする準備や地域の方との確認作業など、多忙化に傾くことのないよう、担当者に大きな負担とならないよう、そのあり方についても持続可能な活動とするためにも求められる、と感じた。

(鶴崎工業分会 時枝徹治)

【第3分科会 子どもの権利を保障する】

報告単組	レポート名
大分高	子どもの権利を保障する
福岡高	性の多様性について考えるとりくみ

<参加者感想>

○部落や在日コリアン、ハンセン病回復者は「カミングアウト」

することを通して、社会の差別を問いただしてきた。そうせざるを得ない差別の厳しさがあるからだ。そうしなくてすむ社会を作らなくてはならない、と感じた。一方、自分の性について違和感を覚えたり、悩んだりしている子どもがいる。その子どもたちが、ありのままの自分、自分らしい自分でいられるよう、私は部落差別をなくすための学びを活かし、とりくんでいきたい。

(佐伯鶴城分会 利光継男)

○ジェンダー平等に関する分科会に参加しました。年に数回、職員室の机の上に置かれている『スマイル』に目を通していたなあと反省しました。とても興味深い記事ばかりで、次号からはぜひ感想を送ってみようと思いました。「選べる制服」だけでは本質的な問題は解決しない。私は、息苦しさを日々感じている子どもたちに、学校現場で何ができるだろうか。性は2つしかないのではなく、グラデーションだという意識をもって、一人ひとりの生徒と向き合っていきたい。

(佐伯鶴城分会 太田孝弘)

○福岡高教組、大分高教組どちらも「性の多様性について考えるとりくみ」についてのレポート発表でした。福岡高教組は、どの学校でも起こり得る生徒の失言とそれに対する職員研修、人権HRAを職場が真剣に行っていることを感じる発表でした。話を聞く中で、私自身「男らしさ・女らしさ」にとらわれていることを実感し、それをいち早く払拭するためには、やはり組合の教研が大切だと実感しました。大分高教組については、もっと『スマイル』を読むべきだと感じました。「制服」という概念を皆で吹き飛ばしましょう。

(日田林工分会 竹本哲也)

◎カリキュラム編成講座

※大分高教組組合員は「教育運動」に参加したので、レポート情報のみ掲載します。

【A分科会 図工・美術】

報告単組	レポート名
長崎県	絵画「ゲルニカ」の立体表現する実践
鹿児島高	鹿児島県内の高校美術教育の現状について

【B分科会 算数・数学】

報告単組	レポート名
熊本県	「個人的な経験こそが、最も創造的な活動へとつながる」 ～単位当たり量から、割合や単位のまとめで世の中を見る～
沖縄県	操作して見つける小数 持って動かすからわかる【小数タイル】
鹿児島県	子どもたちへ本当の連続量の乗除を伝える

【C分科会 総合】

報告単組	レポート名
佐賀県	平和の心を広げよう ～地域教材・“TEAM桜岡”の人材を生かした平和学習のとりくみ～
福岡県	地域との出会い ～総合的な学習の時間を通して、地域を知る、動く～